

法学研究科の教員の養成の目標

<法学研究科 法学・政治学専攻>

法学研究科 法学・政治学専攻では、基礎となる学部教育において身に付けた知識と能力を通じて社会に貢献できると判断された学士の学位授与者を対象に教員養成を行う。具体的には、法学および政治学に関する素養を十分に備え、社会のさまざまな分野において、それを能動的かつ有効に活用できる研究者または高度専門職業人の育成という教育目標のもと、以下の態度や能力を身に付けた高度専門職業人としての教員を養成する。

(1) 法学もしくは政治学を専門領域とする研究者または高度専門職業人として活動するために必要とされる専門的知識（法もしくは政治の歴史的背景及び思想的背景を理解したうえで、現行法または現代政治に関する知識）を修得し、判例及び学説の展開または昨今の政治情勢を踏まえた各種情報を適切かつ迅速に探索する技能や、これらを法学または政治学の観点から総合的に分析し、柔軟に対応できる能力。

(2) 外国の動向も踏まえた幅広い視野から、現代社会に生じる多様な社会問題に取り組み、かつ法制度または政治制度の正確な理解に基づいて科学的に説明し、さらに規範や歴史的経験により根拠づけられた説得的な議論を展開することによって、民主的な合意形成に寄与する考動力を修得し、具体的な法的紛争や政治状況について、法学的または政治学的な思考を通じて分析を加えることで未解決の課題を発見する能力並びに公正で柔軟な思考に基づいた問題解決能力。

(3) 判例や学説の展開または昨今の政治情勢と、研究者や高度専門職業人としての将来の進路を踏まえて、有意な研究テーマを選択し、未解決の課題を自ら設定するとともに、課題解決に向けて適切な研究計画を策定し、それに基づいて研究活動を行おうとする態度ならびに授業や学会・研究会等での研究発表、学術誌への投稿等を通じて、学術的な対話や交流を行おうとする態度。

(4) 修士の学位にふさわしい、柔軟かつ応用力を伴った教科及び生徒指導の実践的指導力により、学校現場で対峙するさまざまな事象や課題の解決にその力量を発揮し、法学、政治学に関する専門的な学術活動における積極的な対人コミュニケーション等を通じて育まれた豊かな人間性、使命感、責任感、教育的愛情により、学校経営・学級経営等を力強く牽引していくことのできる、将来の管理職候補としての基盤となる資質・素養。

(法学研究科 法学・政治学専攻 中専修免 社会)

高度の専門性が求められる職業人の養成を目的とした高度専門職業人養成コースにおいて、法学・政治学に関する歴史や思想的な背景を踏まえつつ、以下の能力を培うカリキュラムを編成している。すなわち、①現行法や現代政治に関する高度な専門的知識やアカデミック・スキル、②論理的かつ科学的な説明を行う能力、③十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、④他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力、⑤法学または政治学に関する特定のテーマについて、総合的な視点から整理、調査および分析を行い、研究成果をまとめる能力である。

中学校専修免許「社会」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、以下のような資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を養成する。

(1)日本を含む世界の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を効果的にまとめる能力。

(2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力、また、思考・判断したことを説明し、それらを基に議論する力。

(3)社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を身につけ、課題を追究したり解決したりする実践を通して、グローバル化する国際社会で主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者として寄与する能力。

(4)多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本を含む世界の国土と歴史に対する関心を涵養し、国民主権を担う公民として、自国の平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める能力。

(法学研究科 法学・政治学専攻 高専修免 公民)

高度の専門性が求められる職業人の養成を目的とした高度専門職業人養成コースにおいて、法学・政治学に関する歴史や思想的な背景を踏まえつつ、以下の能力を培うカリキュラムを編成している。すなわち、①現行法や現代政治に関する高度な専門的知識やアカデミック・スキル、②論理的かつ科学的な説明を行う能力、③十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、④他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力、⑤法学または政治学に関する特定のテーマについて、総合的な視点から整理、調査および分析を行い、研究成果をまとめる能力である。

高等学校専修免許「公民」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、以下のような資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を養成する。

(1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能。

(2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力、また、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力。

(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身につけ、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする実践を通して、グローバル化する国際社会で主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者として寄与する能力。

(4)多面的・多角的な考察や深い理解を通して、人間としての在り方生き方についての自覚を涵養し、国民主権を担う公民として、自国の平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める能力。